

2020年度 1学年通信

「探そう！自分の輝くブンヤ」



甲府東高等学校
2021.2.26(金)
第12号

【1学年リレー通信】

「雑感」

1年6組副担任 猪又 和彦

先日、TVのある娯楽番組で心理学の先生が、「人間の幸福度、満足度というのは他の人とのかわりの中でよりその値を増すのだ」という話をしていた。私たちが無意識のうちに、他の人の笑顔や喜ぶ顔に魅力を感じるのには「そのせいかもしれないな」なんて感じながら見ていた。

一方で、今やっているコミュニケーション英語Ⅰの授業の中で dignity という語がでてくるのだが、この語に出くわすと、ホイットニー・ヒューストンの Greatest Love of All という曲が思いだされる。1980年代の曲でメロディーも素敵なのだが、それ以上にその歌詞に心を動かされる。そこにはセルフライアンスという思いがある。

内容について何も語らず、英語とカタカナを並べただけで「何を言いたいのかさっぱりわからない」！

全くそのとおりである。個人的な思いはあるのだが、ちょっと自分を見つめたときに、この「うた」にふれて、「それぞれの思いでそのままを感じてもらいたい」ただそれだけである。

～月間予定表～



日	月	火	水	木	金	土
2/28	1	2	3	4	5	6
	第42回 卒業証書授与式	大掃除 入試準備	後期募集検査	入試採点日	入試採点日	
7	8	9	10	11	12	13
			球技大会		入学許可予定者発表 SOW研究発表	
14	15	16	17	18	19	20
		生徒総会	SOW		新入生 オリエンテーション	春分の日
21	22	23	24	25	26	27
				納め式・終業式 離任式	春季休業(4/6まで) 理数コース 学習会	
28	29	30	31	1	2	3
	理数コース 学習会					

「失敗や悔しさをバネに」

1年5組副担任 大村 宙希

2月上旬、一つのニュースが私の心を明るくしてくれた。競泳の池江璃花子選手がジャパンオープンという全国大会の舞台で表彰台に上がる活躍を見せてくれたのである。LIVE中継を見ていた私もこれには感動するしかなかった。白血病との闘病を経て、ようやく泳ぎ始めてから1年も経たないうちにここまで戻してくるとは…。奇しくも大会の翌日である2月8日は、白血病と診断されてからちょうど2年となる日だった。この日、池江選手は次の言葉を残している。

「2年前の今日。人生のどん底に突き落とされた日。あの日を一生忘れることはできません。だけど、白血病の診断を受けた後の自分は、思いつき泣いた後、マネージャーさんに、写真を撮って！と言えるほどこんなに笑顔でした。全てのことに開放され、ホッとしていたのかな。1年前とはまた違った気持ちで今日を迎えた気がする。2年前の自分に、2年後はもっと笑顔になれるよって伝えてあげたい。1年前はまだ退院して間もなく、免疫抑制剤も飲んでいたし、吐き気もあったかなあ？よくここまで頑張った！！！」（本人 SNS より）

池江選手の2年間の思いが詰まった言葉である。私はこの言葉の中にある、「2年前の自分に、2年後はもっと笑顔になれるよって伝えてあげたい。」が自分事のように思えてならない。

私が皆さんと同じ高校生だった時のことだ。大学受験で、ずっと憧れていた大学に現役では合格できず、浪人生活を送ることとなった。覚悟を決め臨んだ2度目の試験も1071点が合格ボーダーラインの中、1070点。まさに1点に泣いた。悩みに悩み、もう1年浪人することに決めた。しかし結果は出ず…。失意の中、別の大学に進学することとなる。当時の私は劣等感の塊だった。

大学で入部した水泳部は、世界で活躍する選手もいる強豪チーム。当然練習も壮絶だった。毎朝4時30分に起床し、授業を挟んで夜の9時まで泳ぐ日々（寝ながら泳ぐ術が身についた）。距離にして一日40kmを超える追い込みをした日もある。大晦日・元旦も合宿。思い返してみても、勉強と水泳で占められた大学生活だったと思う（本当に良く辞めなかったと感じる）。あまりにも突き抜けた毎日のお陰で、自然と劣等感も消えていった（むしろ自信しかなかった）。海外合宿では憧れの北島康介選手と練習を行い、萩野公介選手とは同期ということで何度も会話をすることができた。4年生の時には、同じチームの選手がリオオリンピックで金メダルを獲得した瞬間にも立ち会えた。最後は部の主将も経験し、まさに、やり切った！！と思える4年間だった。池江選手の言葉を借りるなら、「4年前の、受験に失敗し悲しんでいる自分に、4年後は今よりもっと良い笑顔でいる卒業式を迎えているよって伝えてあげたい。本当に良く頑張った！！！」となると思う。

人生は選択の連続である。時に成功し、時に失敗することもある。しかし、失敗を恐れてアクションを起こさなければ何も生まれない。高校生活は失敗が当たり前、いつか成功に繋げるための訓練の期間だと私は常々思っている。ぜひともたくさんの経験をしてほしい。そしていつか、苦しかったことも笑って語れるくらい大きな存在になってほしい。きっと皆さんならなれるはずだ。2年後の今は受験シーズン真っただ中。笑顔を咲かせる時のためにも、残り少ない1年生の期間を大切に試してみよう。

皆さんから、池江選手のような「2年前の自分に、2年後はもっと笑顔になれるよって伝えてあげたい。」という言葉が出てくることを期待している。

